

# 市政ニュース

## 豊岡市学校整備計画を策定

### 新たな学校整備に向けて

市教育委員会では、このたび学校整備計画を策定しました。

計画では、耐震基準を満たしていない市立小・中学校を対象に、耐震補強を主とする整備を行うこととしています。また、学校規模が下限の目安に至り、その後も減少が予測される学校のうち、耐震化を

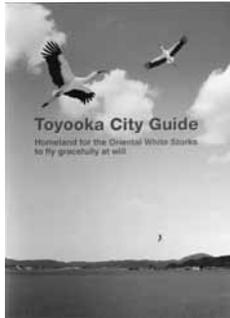
要する学校については、統合等を検討することとしています。

計画期間は今年度からおおむね10年間とし、耐震補強工法や改修および工事実施時期については、学校単位で耐震診断を行い、その結果を踏まえて順次定めることとしています。

## 市勢要覧英語版を作成 外国から訪れる方にも豊岡を紹介

豊岡市市勢要覧「とよおか豆事典」に引き続き、市勢要覧(英語版)を作成しました。

これは、近年増え続けている外国から訪れる方にも、私たちが住むまち豊岡に親しみを持ってもらえるようにつとめ成したもので、豊岡の四季の彩りや地勢、歴史、特産、主要観光ポイント、イベントなどが英語で記載されています。



大きさは、手に持ちやすいA5版で、ページ数は22ページです。数に限りがありますが、ご希望の方は秘書広報課に申し出てください。

## 城崎のK,S連絡協議会がコウノトリ基金に寄付 野生コウノトリが飛来する湿地づくり役に役立てて

5月2日、城崎地域で旅館を経営する旅館組合の若旦那と城崎商工会青年部で構成する「K,S連絡協議会」のメンバー9人が、コウノトリ基金へ寄付するため市役所を訪れました。

寄付された42,200円は、4月23・24日の2日間に開催された城崎温泉まつりで同協議会が「がらくた市」と、豊岡市但東町産のどぶろくの販売をした収益金の全額で

す。

同協議会会長の日生下民夫さんは「野生コウノトリが飛来するような戸島湿地の整備に役立ててほしいです。観光名所の一つになればうれしいですね」と笑顔で話すと、中貝市長は「野生コウノトリの生活拠点となるよう環境保全に取り組み、新しい観光の名所になるよう大切に使用させていただきます」と答えていました。



寄付金を市長に手渡す日生下会長

## 福住地区交流センターが完成 地区の交流活動・防災拠点に

4月22日、福住地区交流センター(出石地域)の竣工式・竣工祝賀会が行われました。

この交流センターは、積極的な県産木材の利用により、林業の振興・地域産材の利用を促進するもので、平成18年度事業として県の「木の香るまちづくり事業」「県民交流広場事業」の補助金を受けて建てられた施設です。施設はバリアフリーで、木

製デッキ、防音室、床暖房、太陽光発電設備などを備え、環境と人に優しく、地域の特色ある行事・活動に対応できる施設となっています。

また、施設の太陽光発電設備は、関西グリーン電力基金の助成金を受けて設置しています。

今後、福住地区での公民館活動、交流活動、子育て、防災拠点として利用されます。



地区の交流活動、防災拠点となる福住地区交流センター

## 能登半島地震被災地を支援

### 新田小児童とプロジェクトEのメンバーが義援金

能登半島地震で大きな被害を受けた石川県輪島市へ義援金を送ろうと4月25日、新田小学校の児童会と「プロジェクトE」メンバー（新田小児童と豊岡南中生徒）のメンバーら6人が、市役所を訪れました。

今回集められた義援金は、20,001円で、4月17日から20日までの4日間、子どもたちが学校内で呼びかけを行いました。

い、友達や家族から募ったものです。

新田小児童会の岡田航汰く（6年）は「台風23号の復旧の時にお世話になった人々にお返しがしたくて呼びかけました。被災したまちが一日も早く元気になってほしいです」と話していました。

寄せられた義援金は、市から石川県輪島市へ送らせていただきます。



集めた義援金を市長に手渡す新田小児童会とプロジェクトEのメンバー

## 交通安全キャンペーンを実施

### 高齢者クラブが交通安全を呼びかけ

5月14日、春の交通安全啓発の一環として、「ごてんまり」キャンペーンを、市役所南庁舎前の交差点で実施しました。

これは、安全運転を促すとともに、啓発活動を行う高齢者自身の交通安全意識を高めてもらうものです。

当日は、奈佐なぎさ学園（高齢者クラブ）の方々が、交通安全の願いを込めて作成した「ごてんまり」約300個を、行き交うドライバーに配布し、



行き交うドライバーに、作成した「ごてんまり」が手渡された

交通安全の啓発を行いました。交通安全の呼びかけをした小谷ちよこさんは「少しでも交通事故が減ってくればいいですね」と話していました。



## 中員市長の復讐日記

### クリスマスプレゼントの話

職員から聞いた話です。

クリスマスイブの日。娘がまだサンタを信じていたころ、出張の帰りに高槻のデパートで娘がサンタに頼んでいたプレゼントを買った。喜ぶ顔を思い浮かべながら勇んで帰った。その夜、枕元にプレゼントを置こうとして、妻が気づいた。箱がどうも軽すぎる。包みを開けると、別の品が入っていた。混雑するレジで店員が間違えたに違いない。

もう、間に合わない。それにしてはもういい。娘も家族も本当に楽しみにしていたのだ。午前0時を過ぎていたが、妻がデパートに電話を入れた。もちろん、売り場の担当は帰宅して、いない。対応した守衛に事情を話し、怒りをぶつけて電話を切った。すると折り返し担当から電話が入った。平身低頭謝る担当に、妻は誠実さを感じて、「もういいですよ」と逆に彼を慰めた。夜明け前。チャイムが鳴った。ドアを開けると、デパートの売り場の責任者が立っていた。誠に申し訳ありませんでした。

娘が望んでいた人形は、無事、枕元に届けられた。サンタクローヌが本来来たのだ。ここから何を学び取るか。

何よりもまず、混雑する売り場で間違いを防ぐ作業手順を徹底すること。プロとして当然のことです。しかし、私が最も感動したのは、失敗が起きた後の対応です。見事な危機管理でした。どんなに精巧なチェック体制を作っても、ときとして間違いは起こります。そのとき、どうするか。

失敗への対処によって、人は信頼をさらに損ねることもあれば、逆にそれ以上のものを勝ち得ることもあります。デパートの心のこもった対応が個人の機転によるものなのか、組織文化によるものなのかは分かりません。しかし、わが市役所にそのような文化をぜひ根付かせたい、そう思います。



中員市長が2カ月に一度、近況をつづるコーナーです。次回をお楽しみに！